

輝く田底っ子

第27号

文責：校長 益永 一幸

田底小 スローガン

① 自分と周りの人を大切にしよう

② 自ら進んで学び、互いに高め合おう

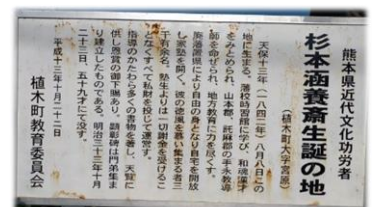


あっ田底に！ステキな歴史 NO. 1

ひこし 杉本 彦治（1842～1900）

鹿本郡植木町宮原に生まれた。幼少期から「神童」と言われるほど賢く学問を究められた。22歳、肥後藩の学校「時習館」で学ぶことになり、藩の命令で阿蘇郡、鹿本郡に学問を広める仕事をした。明治になり、新しく作られた「師範学校」に入学し、卒業してからは、阿蘇郡や玉名郡、鹿本郡を回って先生たちに授業の仕方を教えたり、子どもたちに勉強を教えたりもした。しかし、43歳、それまでの務めをやめて、生まれ育った宮原に自分の学問や考え方を広めるための塾「涵養斎塾」を開いた。彦治の人柄を慕って遠くからもたくさんの人々が集まった。彦治が教えたことの中には、学んだことをお金もうけのためやえらくなるために使うのではなく、たとえ目立たなくても郷土の発展のために役立つようにということであった。この塾で学んだ人々は3千人を超える。

彦治先生は、昭和33年に熊本県近代文化功労者として表彰されました。現在、国道3号線と宮原の交差点に杉本彦治先生の記念碑が建立されています。私たちの郷土や国の発展に尽くした杉本先生のことを、田底の人たちはよく知り、誇りとしていきたいものです。



ワクチン接種の有無について～人権意識をもって～

他の自治体において、教職員が児童生徒に対してワクチン接種の有無を挙手させる等して確認するという不適切な事案が報道されております。

市教育委員会からも改めて以下の事についてお知らせがきました。ぜひ、家庭でも確認をお願いします。

- ワクチン接種は、あくまでも個人（児童生徒にあっては保護者を含む。）の判断によって行われるものであって、決して強制されるものではないこと。
- 同僚や児童生徒にワクチンの接種を強制してはならないこと。
- 身体的な理由や様々な理由（事情）によってワクチンを接種することができない人や接種を望まない人もいること。また、その判断は尊重されなければならないこと。
- 学校行事や教育活動（部活動を含む。）において、ワクチン接種の有無による区別がないよう留意すること。
- 同僚や児童生徒等にワクチン接種の有無を不用意にたずねないこと。特に他の職員や 児童生徒等の面前で確認するようなことは、個人の健康管理上において確認を必要とする場面であっても厳に慎まなければならないこと。